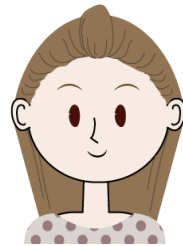


シナリオ 5

恵美と淳一がデート中の

神戸の映画館 地震直後



女子大学生の恵美



恵美のボーイフレンド 淳一

【場面設定】

恵美と淳一は、南京町で少し贅沢なランチを楽しんだあと、映画館にやってきた。今日の映画は淳一の趣味に合わせて「踊る大捜査線」だったが、恵美は主演の俳優が好きなので、いつもなら見ない邦画に付き合った。

映画の序盤、テロリストが湾岸署に爆弾を仕掛け、刑事がまさに爆弾を処理しようと近づいた瞬間、…ゴゴゴゴゴ…すごい地鳴りが館内に響いた。

「最近の映画は、すごい演出だね。」

淳一が恵美に微笑んだその瞬間、急に強い揺れに襲われ、悲鳴とともに誰かが「地震や」と叫んだ。二人はどうする事もできず、ぎゅっと手を握って、ただひたすら揺れが収まるのを待った。

スクリーンが突然消え、暗闇のなか、緑色の誘導灯だけがざわついた館内を不気味に照らしている。

しばらくすると、揺れは収まったが、次は誘導灯のある避難口に観客がわれ先にと押し寄せていた。

「恵美、俺たちもここから早く出よう。」

恵美は恐ろしさのあまり状況を飲み込めずにいたが、淳一の声ではっと我にかえった。

映画館の従業員はアルバイトとみられ、あたふたしているだけできちんと避難誘導ができていない。

すると、余震に襲われ、避難口から溢れた人はさらに殺気立ち、人波を力づくで押している。ビルが倒壊してしまうかもしれない恐怖と、人波に押しつぶされるんじゃないかという恐怖に怯えながら、二人は前に進んだが、その一步、一步はとても長く感じた。

「しっかりつかまってるよ。」



いつも優柔不断な淳一が頼もしく見える。やっとの思いで外に出たとき、大震災の特集番組でしか見たことがないような景色が飛び込んできた。

お互い顔を見合わせ、事態の深刻さに息を飲んだ。すぐさま携帯電話を取り出し、恵美は母親に電話をかけたが全くつながらなかった。それは淳一も同じだった。

【議論のポイント】

- ・自分が、主人公（恵美・淳一）になったつもりで、状況をイメージし、その行動や避難所到着まで、起こりうることや気をつけるべきことを考えてみましょう。
- ・二人は、姫路に急いで戻るべきでしょうか。

シナリオ 5 続編

恵美と淳一がデート中の神戸の映画館

～ J R 三宮駅を経て

【行動シミュレーション】

映画館を出た後、二人はとりあえず J R 三宮駅に向かって歩いた。

だが、駅に近づくにつれて、人波が増え、駅周辺はものすごい数の人でごった返していた。

電車が不通になっているのは、すぐに判断できた。いわゆる帰宅困難者となってしまったようだ。

携帯でテレビニュースを見て、それが山崎断層を震源とする大地震ということがわかった。神戸よりも姫路のほうが被害が大きいうだ。自宅や家族の安否が気になり大きな不安が襲ってきた。



携帯電話には結構な額の電子マネーが入っているが、電池は、ほとんど無くなっている。

しかも、現金はランチ代で使ってしまい、ほとんどない。定期券だけが頼りだが、夕方を過ぎても、三宮付近の雑踏は変わらず、駅員がハンドマイクで状況を何か説明している。どうも、今日中には下り電車は動きそうにない…。

淳一は、詳しい情報を駅員に聞こうとしたが、同じように詰めかけている人たちが駅員から情報を得ようと、駅員のまわりを取り囲んでいる状況で、淳一たちが駅員から聞ける状態でなかった。

やっと駅員と話ができ、「現在、地震の影響により、線路等の安全確認中です。運行の再開のメドは立っておりません。情報が入り次第、お知らせします。」とのことであった。

淳一たちは、姫路に帰れないという不安に駆られた。淳一と恵美は、神戸に親戚や知り合いもいない。これからの行動について2人で相談した。

駅員等から交通機関の情報入手も重要です。

- ①このまま姫路へ歩いて帰るには、もうすでに暗くなっている。
- ②姫路までの距離もかなりあり、女性の恵美のことを考えれば不安。
- ③明日になれば、交通機関も動いているかも知れない。

2人は、無理に姫路に帰るより、神戸にとどまり、寝泊まりできる場所を探すこととした。

「お母さんは大丈夫かなあ・・・携帯はつながらないし。」

「電話が姫路に集中するせいで、ふくそうしてしまってるな。

だけど公衆電話は災害時、繋がり易いと聞いたことがあるな。」

徒歩帰宅中に余震等で二次被害に遭う可能性もあり、災害発生後すぐに帰宅しようとすることは大変危険です。安全な場所に留まるようにしましょう。

災害直後は、被災地への電話が集中するためつながりにくいですが、公衆電話や被災地以外の電話は、比較的つながりやすい！！

歩道脇にある公衆電話で、恵美は自宅へ電話してみた。

しかし、向こうの携帯電話の電源が切れているか、電波の届かないところにいるようだ。

「恵美は、姫路以外に親戚はいない？もしかすると、被災地以外へはつながるんじゃないかな。」

恵美が、東京の親戚に一度電話かけてみたら、淳一の言うとおりに連絡がとれた。



やはり東京からも連絡が取れないようであった。自分も神戸で帰宅困難者となっていることと、姫路と連絡がとれるようであれば、無事であることを伝えてほしいと告げておいた。

「淳一は、連絡しないん？」

「こういったときには、家族で、災害用伝言ダイヤルの171を使って、お互いがメッセージ

日頃から家族間で、災害時の連絡方法を決めておきましょう。特に災害用伝言ダイヤル「171」は非常に有効なツールです。災害時伝言ダイヤル、忘れてイナイ？と覚えてください。＜171＞

を登録することに決めているから。」淳一は、災害用伝言ダイヤルに、無事であるとメッセージを登録しておいた。

また、淳一の家族もメッセージを登録しており、家族が無事であることが分かって、ホッと胸をなで下ろした。

その時、淳一のお腹がグー、グーと鳴り、2人は思わず顔を見合わせた。
気がつけば映画館に入る前にランチをとっただけで、その後、何も食べていない事に気が付き、どちらからともなく「お腹が空いたな」と言葉がでた。

2人は、近くのコンビニで何か食べ物を探すことにしたが、すでに**弁当、おにぎり、パン、菓子類などは、売り切れ状態となっており、商品の補充も交通のマヒですぐには来ないよう**であった。

「三宮のセンター街に行けば何か手に入るかも。」

恵美とともに歩き出し、混雑する国道を横切り、センター街へ到着したが、やはりコンビニもハンバーガー店も全くモノがない状況であった。

「道はすごい混雑して、なかなか進めないし、ところどころガラスの破片も落ちていて、ほんと危ない。」

色々動きまわっても何も手に入らないし、お腹も空いたし、もう疲れたよ。」

「むやみに動きまわるよりも、滞在できるような場所でじっと待つほうがいいかもしれないな。」

災害時は、物流がストップし食料などモノがすぐに無くなってしまいます。

万が一の時を考え、出かけるときはいくらかの食べ物を携行するようにしましょう。

混雑や危険を考えると、屋外をむやみに移動しないことが原則です。
避難所に指定されている小学校などに向かうようにしましょう。

商店街の人に、帰宅困難者のための滞在場所がないかと聞くと、**神戸国際会館が帰宅困難者のための一時滞在施設となっている**と教えてくれた。

神戸国際会館は、既に多くの人であふれかえっていた。ホールとロビーを開放しているようで、ホール部分は既に満席状態であったが、ロビーはまだ開いたスペースがあったため、そこで一晩過ごすこととした。

毛布などの寝具は何もなく、硬い床の上で過ごすさなければならぬが、屋内で安全に過ご

せることとトイレもあることを考えれば、まだマシな状況なんだと2人は言い聞かせあった。
しばらくすると神戸市の職員から、明日からバスにより、西方面への輸送が行われると情報があった。「明日になれば戻れるかもしれないね。」帰る道筋ができた安堵感と、まだ恵美の家族の安否が分からない不安がある中、夜を過ごすこととした。

多数の人が集まる主要な都市では、帰宅困難者のための一時滞在施設の指定の動きが進んでいます。

被災したときは、一時滞在施設もしくは避難所の情報を手に入れ、そこで帰宅が可能になるまで待機するようにしましょう。